



「サステナブル・ブランド国際会議」が、2026年2月18日、19日の2日間、丸の内で開催されました。サステナビリティをテーマとした本会議は、今回が記念すべき第10回。“日本のビジネスの中心地、東京駅周辺で開催したい”、“まちに開かれた国際会議としたい”という、主催者ニーズと DMO 東京丸の内の共鳴し、2023年から丸の内に会場を移して開催されています。

<  
<

開催前夜の2月17日、主催者、出展者、ゲストスピーカー等によるプレナイト・パーティーが開かれました。「わぁ、すごい」ー赤い絨毯が敷き詰められた大理石の階段を前に、招待者から思わず声が漏れます。プレナイト・パーティーの会場に選ばれたのは、1920年に完成した会員制の「日本工業倶楽部」。“特別な場所で開催したい”という主催者の声に、DMO が提案した会場です。

パーティールームに入ると、高さ7.4mの天井まで続く白い漆喰の壁、深緑色の石柱、華麗な装飾等々、創建当時をそのまま残す空間に、参加者の気持ちも高まります。主催者、関係者の挨拶の後は、食事の提供。ケータリングと言っても、そこはレストラン併設の会員制クラブ。館内の厨房から作りたての料理が運ばれ、リラックスした雰囲気とネットワークの輪が自然と広まりました。



プレ・ナイトパーティーの様子



DMO 事務局長よりウェルカムスピーチ

2月18日、約 400 人を集めた全体会議(Plenaries)で、会議は幕を開けました。オープニングには、歌舞伎役者の中村橋吾さんが登場。日本ならではの歌舞伎パフォーマンスで会場を盛り上げます。今回は「東京国際フォーラム」の複数会場を活用。全体会議等に利用する大型ホール、テーマ別のセッションや参加者同士の深い交流には小規模なホール、さらに出展者ブースやセミナー用に「ホールE」と呼ばれる大型スペースで展開されました。

ホールEは天井高9mの 2 層吹き抜け、外光が差し込むスペース。ガラス張りで、国際フォーラム内を通過する人々にも、広く会議の開催と熱気を伝えることができます。



ランチタイムにはホールEで食事も提供。DMO 会員でもある 5 つ星ホテル「帝国ホテル」のケータリング、皇居の堀で刈り取った水草を堆肥に育てた野菜など、この場所ならではの食事が参加者を楽しませます。ランチタイムは会場内に限りません。開催エリアに開かれた MICE のコンセプトが示す通り、丸の内のレストランで利用できるランチクーポンが参加者に配られました。DMO は、主催者に対し、レストランの紹介でご協力しました。



丸の内のメインストリートに面する人気カフェ「Happ.」を DMO が提案  
サステナビリティに配慮した料理が提供されました

会議のプロモーションも、重要な取組みです。

今回は、講談社の人気雑誌「FRaU」とタイアップし、会議の紹介はもちろん、さまざまな企業のサステナブルな取組みを紹介するフリーペーパーを制作し、来場者に配布しました。

DMO は編集に全面協力。主催者には気付きにくい、丸の内エリアでのサステナブルな取組みをいくつもの紹介しました。また、サステナビリティに関心の高い丸の内の店舗、環境に優しい電気バス「丸の内シャトル」の車内にも、フリーペーパーを置いてもらうように働き掛け、丸の内のワーカーや来街者に向けたプロモーション展開に一役買いました。



サステナブル・ブランド国際会議は、2 日間、約 3,000 名の来場者を集め、主催者、出展者、参加者、そして DMO にとっても充実したかたちで幕を閉じました。

DMO が丸の内で開催支援をするのは今回で 4 回目。

会議のテーマや参加者は異なるので、毎回オーダーメイドでメニューを考える必要がありますが、大変でもあるし、DMO にとっては楽しい作業です。

また、開催決定から実行までのスケジュールを把握することで、早い段階から主催者と一緒になって、企画準備を進めることも、会議を成功に導くひとつの要素と考えています。

これからも、DMO 東京丸の内は、さまざまな国際会議の誘致と支援を続けていきます。